

2024.1.13(土) 松本系魚川連絡道路 大町市街地区間 住民説明会 質疑応答 要旨

【質問 1】

木崎湖以北や青木湖方面の活断層に対する防災や安全性はどのように考えているのか。

【回答 1】(大町建設事務所)

松糸道路は災害時には緊急輸送道路となるため、設計にあたっては大地震を考慮して設計をすることになるが、全く被害を受けない道路にする、というのは困難と考える。また、活断層についても避けることが望ましいが、道路や鉄道といった連続する施設では完全に避けることは困難と考える。道路の設計にあたっては、損傷が限定的かつ速やかに機能回復が行える性能を確保できるような設計を検討していきたい。

【質問 2】

道路の完成は早くても 15 年～20 年先になると思うが、2050 年将来人口は約4割減少することが想定されている。それを踏まえると、比較評価に使っている令和12年将来交通量推計や平成 27 年度の所要時間のデータは適切なのか。2050 年の人口減少を踏まえて評価した場合、どのような結果になるのか。事業として適切なのか。

【回答 2-1】(大町市)

大町市では人口減少対策を進めてきており、近年は移住者も増加している。しかし、人口減少を前提としたまちづくりは必要であり、その一環としてコンパクトなまちづくりが必要と考える。松糸道路はそのまちづくりの一助になると考える。

【回答 2-2】(大町建設事務所)

推計結果や所要時間のデータは、直近のデータを活用している。最新のデータが公表された場合は、必要に応じて内容の更新を行っていきたい。

【質問 3】

今回使用しているデータでは適切な評価ではなく、事業の透明性がないと考える。将来の人口減少も踏まえたデータで評価をしない場合は、発表を訂正し、計画を見直すべきと考える。

【回答 3-1】(大町建設事務所)

現在は構想段階であり、今後、公共事業として事業評価を実施するが、その中で、費用対効果や事業費を検討していきたい。そのため、指摘された内容については、今後、検討を進めていく予定である。

【回答 3-2】(大町市)

今回の道路整備は大町市の税金で賄うものではなく、国からの補助金等を活用しながら、進めていくものである。

これまでに、客観的な指標を設定し、5分野・13項目の評価項目、26の評価視点を設け、説明会やオープンハウスでその都度説明を行ってきたので、事業の透明性は図りつつ、適切に段階を踏んできたと考えている。

【質問 4】

大町市の魅力的な水を地震等の災害から守るためにも、道路整備の前に水道管の配備をお願いしたい。

【回答 4-1】(大町市)

水道管の配備は予算を投入しながら毎年計画的に進めている。道路整備の前にやるべきだ、というのは優先度を決めるのではなく、同時並行で進めていくことが重要と考える。

【回答 4-2】(大町建設事務所)

災害から守るという視点では、設計・検討をしていく中で必要な調査を行い、可能な限り安全性を高める検討を進めていきたい。

【質問 5】

松糸道路は対向2車線で幅員 10m の整備になると思うが、安全性は確保できるのか。故障車が発生した場合、通行できなくなるのではないか。

【回答 5】(大町建設事務所)

現在は、対向2車線で片側の車道幅員 3.25m に加え、1.5m 程度の路肩を設置することを考えている。そのため、故障車が発生した場合もそれを回避した通行が可能と考える。

【質問 6】

対向2車線は全国的にも正面衝突事故が多いという背景も踏まえながら、より安全な道路を考えていくべきと考える。

【回答 6】(大町建設事務所)

今後、設計を進める上での参考としたい。

【質問 7】

盛土は地震に弱いため反対する。田畑や食料工場をつぶすことにも反対する。また、交通量も減少傾向であるため、現状の道路で間に合っていると考える。

【回答 7】(大町建設事務所)

現在は盛土構造を提案しているが、今後、詳細な設計を進めながら、最終的にどのような構造にするのか意見交換しながら検討していきたい。災害の発生を想定した場合も、耐震性のある構造、JR との交差部で例えると、一体構造や高架橋も案として考えられるため、その点も今後の設計で検討していきたい。

田畑等がつぶれるといった視点では、盛土の場合は可能な限り高さを抑えたり、幅を抑えたり等の

工夫を検討していきたい。

現状の道路で十分ということだが、物流の 2024 年問題といった背景を踏まえても、一定速度での走行、所要時間短縮が重要であるため、道路整備が必要であると考え。

【質問 8】

以前から主張していることであるが、今回の構想は、木崎湖以北も一体として考えるべきであるにも関わらず、大町市街地区間のルートを先に決めなければいけないのはなぜなのか。

また、道路が集中している木崎湖沿線で甚大な被害があった場合は誰が責任をとるのか。

【回答 8】(大町建設事務所)

木崎湖以北については、沿道アクセス、信号設置状況等が大町市街地区間と異なるため、大町市街地区間が先行して整備された場合も、現状の道路で利用が可能と考えており、現段階では分けて検討している。

ただし、木崎湖以北でも調査は並行して行っており、整備方針が固まり次第、意見交換をしていきたいと考えている。

【質問 9】

調査に進展はあったのか。

【回答 9】(大町建設事務所)

旅行速度調査、道路線形調査を実施している。環境調査は来年度以降、早期に実施したい。

【質問 10】

13 項目による評価とのことだが、各ルートの距離感を踏まえると、まちづくりの観点で差が出るとは考えにくい。住民にとっても重要な指標である交通事故は、なぜ国道しか評価していないのか。オリンピック道路も評価すべきと考える。また、同等評価となっている項目の中にも、重要な項目が含まれている。データを見直して評価すべきと考える。

【回答 10】(大町建設事務所)

5 分野 13 項目の評価はできる限り定量的かつ、恣意的にならないよう、項目間で重みづけはしていない。この評価では国道を最も重要視して行っているが、いずれのルート帯であってもオリンピック道路の交通量は減少する結果となっている。そのため、オリンピック道路の交通事故も減少すると考える。

【質問 11】

オリンピック道路の蓮華大橋を渡って常盤方面へ行くと逆バンクになっている道路がある。あの道路は市道か、県道か。オリンピック道路の左折レーンが傾いているのを確認してほしい。

【回答 11】(大町建設事務所)

市道である。道路の傾きについては、現場で確認させていただく。

【質問 12】

盛土構造とした場合、その土はどこから持ってくるのか。

【回答 12】(大町建設事務所)

公共事業の残土等を想定しているが、搬入土砂については、今後検討していく。

【質問 13】

環境に影響のあるような土は使用しないようにしてもらいたい。

【回答 13】(大町建設事務所)

盛土にそのような土を使用することはない。

【質問 14】

盛土構造だと車を停車し、沿線の果樹園や畑に侵入されることも想定されるため、そのような面でも対策を講じてほしい。

【回答 14】(大町建設事務所)

防護柵の設置等、道路からの侵入ができないような対策を検討する。

【質問 15】

松糸道路が自分の地域を分断してしまうことを最近知ったが、その説明会はあったのか。

【回答 15】(大町建設事務所)

1つ1つの地区では実施していないが、令和4年の4月から6月にかけて、まとまった形での説明会を開催した。常盤の公民館で2回、大町市役所で1回、大原の公民館で1回、平の公民館で2回説明会を実施している。

【質問 16】

中心地域の住民にだけ情報が届くよう、ニュースソースを絞っていたのではないか。

【回答 16】(大町建設事務所)

そのような意図は全くないが、情報共有がうまくできていなかった点はお詫びする。

【質問 17】

道路が整備されると自宅からの眺望が大きく変わると考える。将来、道路が整備された場合にどのように眺望が変わるのか、そのイメージを共有してほしい。

【回答 17】(大町建設事務所)

詳細な設計を進めていく過程で、どのような高さや眺望になるのかを説明していきたい。

【質問 18】

土地利用の観点で、地域及び住宅地・商業地・工業地とあるが、もっと項目を細かくして評価すべきと考える。また、騒音・振動は重要な課題であり、そのことを踏まえても C ルート帯の優位性が高いと判断するのはいかなものか。

【回答 18-1】(大町建設事務所)

今回の選定は、比較評価の結果と皆さんからの意見、また市の考え方などを総合的に判断して決定したものである。土地利用への影響は少なからず発生してしまうが、今後も理解が得られるよう丁寧な説明を続けていきたい。また、環境の予測調査等を実施しながら、できる限り環境面での影響を小さくするような検討を行っていきたい。

【回答 18-2】(大町市)

どのルート帯でも少なからず課題が発生する中、相対的な評価の結果として、C ルートの優位性が高くなったという点は理解してほしい。

【質問 19】

安心・安全を確保する上で必要な道路と考える。松糸道路は南北に伸びる道路であるが、東西方向として、上信越道に接続するような道路は整備可能なのか。また最近、設計ミス等が発生しているとも聞く。松糸道路の今後の設計においては、このようなミスがないよう進めてほしい。

【回答 19】(大町建設事務所)

東西方向については地質調査等を実施していないため、現在のところコメントできないが、リニアが南アルプスの下を通るように、技術的には可能と考える。

設計ミスが原因で供用が遅れた事業があるのは事実である。松糸の設計は難しい内容も想定されるため、慎重かつ丁寧に検討を進めていきたい。

【質問 20】

大町市に移住者が増えているのは喜ばしいことであり、ぜひこの取り組みを続けてほしい。周辺には振興が進んでも人口が減少している地域があり、反面教師として、大町市の取り組みを実施してほしい。

【回答 20】(大町市)

大町市では、できる限り働く場を増やししながら、また、企業誘致、産業立地を支援しながら、人口減少を食い止める、そういった取り組みを実施していきたい。